

テーマ別講師研究会成果報告書

研究会名:20 世紀国際政治史研究会

代表者名:加藤正男

1. 研究テーマ

「戦争と革命の時代」と呼ばれた 20 世紀の国政政治史を軸に、21 世紀にも対象時期を拡大して探究した。冷戦が終結して 30 年余りの今日、世界では 2001 年のアフガニスタン戦争に始まり、2022 年のロシアによるウクライナ侵攻（ウクライナ戦争）、2024 年のガザ紛争（戦争）、2026 年のイラン戦争が起こり、「戦争の時代」とも呼ばれている。さらにトランプのアメリカ、プーチンのロシア、習近平の中国といった大国による戦後国際秩序を崩壊させる動きに直面している。研究会では、こうした今日起こっているさまざまな事象を、国際政治学者の報告を通して多面的に探究した。なお、20 世紀国際政治史研究会は、河合文化教育研究所のもと 1996 年に発足し、愛知大学名誉教授柳澤英二郎を研究会顧問として迎えた。

2. 研究の問題意識、活動内容

①研究の問題意識

「脱歴史時代」とも呼ばれる今日、世界で起こったさまざまな出来事の背景、原因、経緯、結果を理解するには、「歴史」を学び、そこから「歴史」の教訓を読み取ることが必要であると考え。「過去」と「現在」と「未来」は一つの糸につながっている（イギリスの歴史家 E.H. カー）。研究会では、こうした観点に基づいて、今日起こっているさまざまな事象を、歴史的観点から分析し、今後どのように推移しているのかを展望することに重点をおいた。

②活動内容

第一線で活躍されている研究者を中心に招き、国際政治史を理解する上で重要なテーマに関して以下の報告をお願いした（詳細は、各報告者のレジュメを参照）。

- ・ 2023. 12. 9 第 93 回例会
 - ・ 「冷戦期の米国秘密介入における傭兵の利用とその規制」
 - ・ 三須拓也（東北学院大学教授）
- ・ 2024 年 1 月 27 日 第 94 回例会
 - ・ 「ガット第 35 条対日援用問題－自由貿易、帝国、冷戦、ナショナル」
 - ・ 鈴木宏尚（静岡大学教授）
- ・ 2025 年 3 月 1 日 第 95 回例会
 - ①
 - ・ 「国際政治史としての「第三世界」再考－1955-1965」
 - ・ 山本健（西南学院大学教授）
 - ②
 - ・ 「N A T O 東方拡大の経緯に関する研究動向 1」

・吉留公太（神奈川大学教授）

・2025年4月20日 第96回例会

①

・「NATO東方拡大の経緯に関する研究動向2」

・吉留公太（神奈川大学教授）

②

・「トランプ政権と国際秩序」

・三牧聖子（同志社大学教授）

・2026年3月14日 第97回例会

・「多面的な危機と地球社会再考」

・木畑洋一（東京大学名誉教授・成城大学名誉教授）

なお、研究会では、名誉顧問の故柳澤英二郎（愛知大学名誉教授）の著作『戦後国際政治史』全4巻（柘植書房）の電子書籍化を進めています。

3. 具体的な成果

・例会に報告をいただいた研究者は、報告などをベースに出版や学会報告をおこないました。具体的には、以下の通りです。

a. 三須拓也（東北学院大学教授）：「第三世界における危機」（『冷戦史』法律文化社、2024）

b. 鈴木宏尚（静岡大学教授）：「ガット第35条対日援用問題」（『二国間と多国間をめぐる日本外交』国際政治212号、2024）

c. 三牧聖子（同志社大学教授）：「トランプ再来がもたらす「ヤルタ2.0」と日米関係の試練」（『世界経済評論 1・2号』2026）

d. 吉留公太（神奈川大学教授）：『ドイツ統一とアメリカ外交』（晃洋書房、2021）の中で、1989年12月の米ソ首脳によるマルタ会談で、両首脳が「冷戦の終結」を宣言したとの通説を否定した。吉留教授は、米ソ首脳の記者会見での発言録を検証し、「冷戦の終結」に言及したのはゴルバチョフ（ソ連大統領）で、ブッシュ米大統領は終結に言及しなかったと指摘した。多くの受験生が使っている山川出版社の『世界史用語集』（2023）でも、「マルタ会談」の説明のなかで、吉留説にそった内容となっています。このことから、世界史教科書も「冷戦の終結」宣言に関する見直しがおこなわれると思います。